

国土交通省では、中長期的視点からみた21世紀の下水道のあり方や方向性についての議論の成果を「下水道ビジョン2100」としてとりまとめました。この中では、下水道の有する資源回収・供給機能を積極的に活かして、下水処理場のエネルギー自立、地球温暖化防止等 に貢献する「資源のみち」の創出が盛り込まれました。

下水道ビジョン2100

下水道の使命と役割

持続可能な循環型社会の構築により、
「美しく良好な環境」、「安全な暮らし」と「活力ある社会」
を実現する

下水道の使命を実現するための施策の考え方

20世紀型下水道

●下水道の普及拡大に重点

- ・汚水の効率的な「排除・処理」による公衆衛生・生活環境の向上
- ・雨水の速やかな「排除」による浸水対策

住民にわかりやすい情報発信と住民との対話

21世紀型下水道

●健全な水・資源循環を創出

- ・「排除・処理」から「活用・再生」への転換により、美しく良好な環境の形成並びに安全な暮らしと活力のある社会を実現

資源のみち

〈施策展開の上の考え方〉

①処理場のエネルギー100%自立

省エネルギー対策と併せ、下水道の有するエネルギーの活用等により従来の化石燃料に依存しないエネルギー100%自立型処理場を目指すことを基本とする

②新エネルギー等活用のトップランナー

下水汚泥に加え、厨芥や剪定廃材、家畜排泄物等のバイオマスエネルギーや太陽光・風力発電等の新エネルギーを積極的に活用する、トップランナーとしての取り組みを基本とする

③地域へのエネルギー・資源の積極供給

下水道施設で創出される新エネルギー等や資源を、下水処理場が中核となって地域に供給し、地域エネルギーの転換及び安定供給の確保に積極的に貢献することを基本とする

〈基本方針〉
資源のみち

自立する
資源のみち

下水道施設が利用するエネルギーの自立率を高める

活かす
資源のみち

集積する下水汚泥や、空間・立地条件を活用して創出する新たな資源を地域社会に供給する

優しい
資源のみち

新たに創出したエネルギー・資源の活用による地球温暖化の防止等、環境保全に貢献する